

横藤田誠先生略歴及び業績

昭和三十一年（一九五六）十二月二十九日生まれ

〈学歴〉

昭和五十年（一九七五）四月 広島大学政経学部法律政治学科 入学
昭和五十四年（一九七九）三月 広島大学政経学部法律政治学科 卒業
昭和五十四年（一九七九）四月 広島大学大学院法学研究科法律学専攻修士課程 入学
昭和五十八年（一九八三）三月 広島大学大学院法学研究科法律学専攻修士課程 修了（法学修士）
昭和六十一年（一九八六）四月 広島大学大学院社会科学研究所法律学専攻博士後期課程 入学
平成元年（一九八九）三月 広島大学大学院社会科学研究所法律学専攻博士後期課程 単位取得満期退学

〈職歴〉

平成元年（一九八九）四月 日本学術振興会特別研究員（平成三年三月まで）
平成三年（一九九一）四月 宇部短期大学講師（法学・日本国憲法・労働法担当）（平成七年三月まで）
平成六年（一九九四）七月 国立精神・神経センター精神保健研究所客員研究員（平成十二年三月まで）
平成七年（一九九五）四月 宇部短期大学助教授（日本国憲法・法律学・労働法他担当）（平成十年三月まで）

平成 十年（一九九八） 四月 広島国際大学医療福祉学部医療福祉学科助教（法学・医療福祉法制／行政論他担当）（平成十五年三月まで）

平成 十五年（二〇〇三） 四月 広島国際大学医療福祉学部医療福祉学科教授（法学・医療福祉法制／行政論・社会保障論他担当）（平成十八年三月まで）

平成 十八年（二〇〇六） 四月 広島大学大学院社会科学研究所法政システム専攻政策法務講座教授（日本国憲法・統治システム論・基本的人権・現代法政策論他担当）（令和二年三月まで）

平成 二十六年（二〇一四） 九月 ノースカロライナ大学（チャペルヒル校）カロライナ・アジアセンター客員研究員（平成二十七年一月まで）

令和 二年（二〇二〇） 四月 広島大学大学院人間社会科学研究所人文社会科学専攻法学・政治学プログラム教授（日本国憲法・統治システム論・基本的人権・現代法政策論他担当）（令和四年三月まで）

令和 四年（二〇二二） 三月 同 退職

令和 四年（二〇二二） 四月 広島大学名誉教授

〈社会における活動〉

平成 六年（一九九四） 七月 宇部市個人情報保護対策審議会委員（平成十年三月まで）

平成 九年（一九九七） 三月 「季刊精神科診断学」（日本評論社）編集委員（平成十五年休刊）

平成 十一年（一九九九） 十月 広島県介護保険審査会委員（平成十七年三月まで）

- 平成十四年(二〇〇二) 十月 東広島市情報公開審査会委員(平成二十四年七月より会長)(現在に至る)
- 平成十四年(二〇〇二) 十月 国立病院機構賀茂精神医療センター倫理委員会外部委員(現在に至る)
- 平成十五年(二〇〇三) 四月 特定非営利活動法人障害者生活支援センターてごーす運営委員(現在に至る)
- 平成十七年(二〇〇五)十一月 広島県情報公開・個人情報保護審査会委員(平成十九年十一月より第二部会長)(平成二十六年七月まで)
- 平成二十年(二〇〇八) 四月 国立病院機構賀茂精神医療センター医療観察法病棟外部審査委員(現在に至る)
- 平成二十年(二〇〇八) 五月 特定非営利活動法人CAP広島理事(平成二十六年三月まで)
- 平成二十年(二〇〇八) 十月 広島市子どもの権利条例(仮称)について意見を聞く会委員(平成二十二年二月まで)
- 平成二十四年(二〇一二) 四月 東広島市社会福祉協議会権利擁護センター運営委員会委員長(現在に至る)
- 平成二十七年(二〇一五) 四月 広島県個人情報保護審議会会長(現在に至る)
- 平成二十七年(二〇一五) 十月 広島県障害者差別解消支援地域協議会会長(広島県障害者自立支援協議会部会長)(現在に至る)
- 平成二十八年(二〇一六) 四月 広島県障害者自立支援協議会委員(現在に至る)
- 平成二十八年(二〇一六) 四月 広島県行政不服審査会会長(現在に至る)
- 平成二十八年(二〇一六) 十月 広島県医療安全推進協議会委員(令和四年十月まで)
- 平成二十八年(二〇一六)十二月 東広島市障害者差別解消支援地域協議会委員(会長)(現在に至る)
- 平成三十年(二〇一八) 四月 東広島市高齢者及び障害者に係る虐待防止ネットワーク委員会委員(会長)(現在

に至る)

平成 三十年(二〇一八) 十月 広島市障害者差別解消支援地域協議会委員(会長)(現在に至る)
 令和 二年(二〇二〇) 六月 特定非営利活動法人C A P 広島理事(現在に至る)
 令和 四年(二〇二二) 三月 広島県障害者虐待防止ネットワーク推進会議委員(現在に至る)

〈所属学会〉

日米法学会

関西アメリカ公法学会

中・四国法政学会

日本公法学会

中・四国アメリカ学会

法と精神医療学会(平成十五年四月から理事)

日本医事法学会

主要著作及び論文目録

一 著書

〈単著〉

平成十四年 (二〇〇二)

『法廷のなかの精神疾患―アメリカの経験―』…… 日本評論社

令和二年 (二〇二二)

『精神障害と人権―社会のレジリエンスが試される―』

法律文化社

〈共著〉

平成四年 (一九九二)

『第四講 基本的人権の保障』道廣泰倫編『現代法学講義』

法律文化社

平成六年 (一九九四)

『フォーラム6 幸福追求権』畑博行・阪本昌成編『憲法フォーラム』

有信堂

平成八年 (一九九六)

『2. 憲法』栗屋剛編『法律学フロッチャート』…… 法律文化社

平成十年 (一九九八)

『第7章 人権の解剖図と履歴書』、『第8章 生と死と家族を

めぐる憲法問題』阪本昌成編『これでわかる!? 憲法』(第二版 平成十三年) …… 有信堂

平成十一年 (一九九九)

『第6章 治療同意に関する指針作成の留意点』大塚俊男他編

『エビデンス精神科医療II 精神分裂病・自殺予防・治療同意』

日本評論社

平成十二年 (二〇〇〇)

『第2章 個人の自己決定と自律』畑博行編『現代法学入門』

有信堂

平成十三年 (二〇〇二)

『Ⅶ 権利擁護のために』日本医療ソーシャルワーク研究会編

『介護保険時代の医療福祉総合ガイドブック』(第二版平成十四

年、第三版平成十五年)

医学書院

平成十七年 (二〇〇五)

『第3章 保健・医療・福祉を支える法制度』立石宏昭・宮崎

徳子編『保健・医療・福祉ネットワークのすすめ』(第二版平

成十九年、第三版平成二十二年) …… ミネルヴァ書房

平成十八年 (二〇〇六)

『Ⅷ 権利擁護と利用者支援』日本医療ソーシャルワーク研究

会編『医療福祉総合ガイドブック』(二〇〇六年度版、

二〇一〇年度版) …… 医学書院

平成二十年 (二〇〇八)

『第21講 精神科医療の基本原理と関連法制度』甲斐克則編『ブ

- リッジブック医事法」(第二版平成三十年)……………信山社
- 「人の生死と法―人知の及ばない領域における共生の試み―」
青木孝夫編『21世紀の教養5 知の根源を問う』……………培風館
- 「第1講 人権を護る砦―憲法」,「第2講 「臣民の権利」と「基本的人権」―明治憲法から日本国憲法へ」,「第3講 人権は無制限?―人権制約の原理」,「第6講 ドラえもんのポケット?―幸福追求権」,「第7講 心の自由は渡さない!!!―精神的自由権」,「第8講 人間らしく生きたい―生存権」,「第12講 子どもは人権の主体? 保護の対象?―子どもの人権」,「第13講 障害があっても自分らしく生きたい―障害者の人権」,「第14講 路上に生きる―ホームレスの人権」横藤田誠・中坂恵美子著『人権入門―憲法・人権・マイノリティ』(第二版平成二十三年、第三版平成二十九年、第四版令和三年)……………法律文化社
- 平成二十一年(二〇〇九)
「アメリカにおける Insanity Defense―合憲性の問題を中心に―」中谷陽二編『責任能力の現在』……………金剛出版
- 平成二十二年(二〇一〇)
「第8章 情報の活用と保護に関する法規制」広島大学情報メディア教育研究センター編『情報化社会への招待(第13版)』……………学術図書出版社
- 「第4章 平等な社会に不可欠の人権」,「第6章 人と人とのつながりをめぐる憲法問題」阪本昌成編『謎解き 日本国憲法』……………日本国憲法
- (第二版平成二十八年)……………有信堂
- 平成二十三年(二〇一一)
「第1章 司法制度改革と日本の裁判」,「第7章 裁判は医療被害者を救済できるか」横藤田誠編著『裁判所は「権利の砦」たりうるか』……………成文社
- 平成二十四年(二〇一二)
「憲法から見た精神障害者と死刑 アメリカの経験」高岡健・中島直編『死刑と精神医療』……………批評社
- 平成二十八年(二〇一六)
「第3章 不利な立場の人々の人権」後藤玲子編『正義』……………ミネルヴァ書房
- 「小児医療と子どもの権利」甲斐克則編『医事法講座第七巻 小児医療と医事法』……………信山社
- 平成二十九年(二〇一七)
「アメリカ合衆国…犯罪行為を行った精神障害者に対する司法福祉」宇佐見耕一他編『世界の社会福祉年鑑 2017 第17集』……………旬報社
- 令和元年(二〇一九)
「第5章 「障害のあるアメリカ人」政策の歴史と現在」後藤玲子・新川敏光編『新版 世界の社会福祉 第6巻「アメリカ合衆国/カナダ」』……………旬報社
- 令和二年(二〇二〇)
「精神科医療の基本原理と関連法制度」甲斐克則編『医事法講

座第十巻 精神科医療と医事法」…………… 信山社

二 論文等

昭和五十七年（一九八二）

〔(論文紹介) Note, Administrative Action to End Discrimination Based on Handicap : HEW's Section 504 Regulation, 16 Harv. J. Legis. (1979)〕

昭和五十八年（一九八三）

〔(判例研究) 堀木訴訟上告審判決（最大判昭五七・七・七）について〕年金と児童扶養手当の併給制限の合憲性〕

昭和六十年（一九八五）

〔(アメリカ判例研究) Youngberg v. Romeo, 457 U.S.307 (1982) —州立の精神衛生施設に収容されている精神薄弱者は、デュー・プロセス条項によって保障される安全の権利および身体的拘束からの自由に関連する限りで、治療を受ける権利を有する〕

昭和六十二年（一九八七）

〔(アメリカ判例研究) 心神喪失者の死刑執行と修正八条、14条 — Ford v. Wainwright, 106 S.Ct.2595 (1986)〕

…………… 〔判例タイムズ〕六四二二号（判例タイムズ社）

平成元年（一九八九）

〔アメリカにおける精神病患者と憲法（一、二、三完） — 強制入院法の歴史的展開 — 〕

…………… 〔広島法学〕「二」十二巻三号（平成元年）、「二」十三巻二

号（平成元年）、「三完」十四巻一号（平成二年）（広島法学会）

平成二年（一九九〇）

〔Morrison v. Olson, — U.S. — 108 S.Ct. 2597 (1988) — 政府倫理法の独立檢察官規定は、憲法第二編二節二項の任命条項や第三編に違反するものでなく、また執行部の権能に不当に干渉することにより権力分立原理に違反するものでもない〕

…………… 〔アメリカ法〕一九八九—二（日米法学会）

平成四年（一九九二）

〔精神障害者の強制入院制度とアメリカ憲法〕

…………… 〔宇部短期大学学術報告〕二十九号（香川学園宇部短期大学）

平成六年（一九九四）

〔責任無能力を理由に無罪となった者の収容をめぐる憲法問題 — アメリカ連邦最高裁の Foucha 判決（1992年）を中心に — 〕

…………… 〔宇部短期大学学術報告〕三十一号（香川学園宇部短期大学）

平成七年（一九九五）

…………… 〔精神病院入院患者の治療の法的規制に関する国際的動向〕

- …『宇部短期大学学術報告』第三十二号(香川学園宇部短期大学) 平成八年(一九九六)
- 「老人ホームにおける入居者の人権」その序論的考察」
- …『宇部短期大学学術報告』第三十三号(香川学園宇部短期大学) 平成九年(一九九七)
- 「人権論の現在―「不利な立場の人々」の視点からの覚書」
- …『宇部短期大学学術報告』第三十四号(香川学園宇部短期大学)
- 「不利な立場の人々の人権―障害者の雇用をめぐる」
- …『私学研修』一四七・一四八号(私学研修福祉会) 平成十年(一九九八)
- 「精神障害者の欠格条項と人権」
- …『精神保健研究』第十一号(国立精神・神経センター精神保健研究所)
- 「法廷のなかの精神疾患(1)」(13)
- …『季刊 精神科診断学』(1) 九卷一号、(2) 九卷二号、(3) 九卷三号(以上平成十年)、(4) 十卷一号、(5) 十卷二号、(6) 十卷三号(以上平成十一年)、(7) 十卷四号、(8) 十一卷一号、(9) 十一卷二号、(10) 十一卷三号、(11) 十一卷四号(以上平成十二年)、(12) 十二卷一号、(13) 十二卷二号(以上平成十三年)(日本評論社) 平成十一年(一九九九)
- 「医療と福祉における代行決定の法的位置づけ」
- …『季刊精神科診断学』十卷一号(日本評論社)
- 平成十二年(二〇〇〇)
- 「社会保障の立憲的統制―生存権理論史とその周辺―」阪本昌成編(畑博行先生古稀記念論文集)『立憲主義―過去と現代の間』(有信堂)
- 「精神医療における自己決定と代行決定」
- …『年報医事法学』十五号(日本医事法学会)
- 「精神科医療の倫理的側面における法的判断」
- …『臨床精神医学講座』52(スペシャル・イツシユウ第12巻) 精神医学・医療における倫理とインフォームド・コンセント(中山書店)
- 「精神科薬物療法におけるインフォームド・コンセントと法」
- …『臨床精神薬理』三卷十二号(星和書店)
- 「論文紹介」精神医療と法―革命は成就したのか? PAUL S. APPELBAUM, ALMOST A REVOLUTION: MENTAL HEALTH LAW AND THE LIMIT OF CHANGE, Oxford University Press, 1994, pp. x + 233
- …『アメリカ法』二〇〇〇―(日本法学会) 平成十三年(二〇〇一)
- 「アメリカにおける精神医療をめぐる法改革の功罪」
- …『法と精神医療』十五号(法と精神医療学会)
- 「文献紹介」T・グリッソ、P・アッペルボーム著/北村總子・北村俊則訳『治療に同意する能力を測定する』(日本評論社、平成十二年)……『年報医事法学』十六号(日本医事法学会) 平成十五年(二〇〇三)

「治療の終結・中断と治療者の法的責任」

……『こころの科学』百十号（日本評論社）

「十分な判断能力のない患者のインフォームド・コンセント（講座インフォームド・コンセントの概念と作業療法）」

……『作業療法ジャーナル』三十七卷十号（三輪書店）

平成十六年（二〇〇四）

「強制治療システムとその正当化根拠——アメリカの憲法判例を中心に」

『ジュリスト増刊「精神医療と心神喪失者等医療観察法」

……（有斐閣）

「医療における法規制と倫理」

……『日本診療放射線技術学会雑誌』六十卷八号（日本診療放射線技術学会）

平成十七年（二〇〇五）

「憲法から見た心神喪失者等医療観察法」

……『法と精神医療』十九号（法と精神医療学会）

「心神喪失者の死刑執行をめぐる法的議論——アメリカの憲法判例を中心に——」

……『精神神経学雑誌』百七卷七号（日本精神神経学会）

平成十八年（二〇〇六）

「法廷の中の野宿生活者問題」

……『広島国際大学医療福祉学科紀要』第二号（広島国際大学医療福祉学科）

「[判例研究] 同意入院（医療保護入院）の要件（東京地裁平成二年十一月十九日判決〔判時一三九六号九十五頁〕別冊ジュリスト『医事法判例百選』）

平成十九年（二〇〇七）

「自殺の憲法学的検討——自殺の権利性をめぐって——」

……『法と精神医療』二十・二十一合併号（法と精神医療学会）

平成二十一年（二〇〇九）

「書評……中谷陽二編集代表『精神科医療と法』（二〇〇八年、弘文堂刊、A5版386頁）」

……『年報医事法学』二十四号（日本医事法学会）

平成二十三年（二〇一一）

「抗精神病薬強制投与に対する法的対応……その国際的動向」

……『臨床精神薬理』十四卷一号（星和書店）

平成二十六年（二〇一四）

「[判例研究] 医療保護入院の要件（東京地裁平成二十二年四月二十三日判決〔判時二〇八一号三十頁〕別冊ジュリスト『医事法判例百選（第二版）』）

平成二十九年（二〇一七）

「障害をもって生きるということ」（特集 障害と法——自分らしい一生を選択するために）

……『法学セミナー』七四五号（二〇一七年二月号）（有斐閣）

平成三十年（二〇一八）

「精神障害者と人権——不利な立場の人々の人権保障に関する一考察（一）」

……『広島法学』四二卷一号（広島大学法学会）

平成三十一年（二〇一九）

「非自発入院の正当化根拠―法律家の立場から―」

……………『法と精神医療』三十三号（法と精神医療学会）

令和二年（二〇二〇）

「精神障害者の強制入院制度と憲法学」

…『同志社法学』七十二巻四号（四一四号）【竹中勲教授追悼

記念論集】（同志社大学法学会）

令和四年（二〇二二）

「Hiroshima, America, and the Constitution」

……………広島法学四十五巻四号（広島大学法学会）

「〔判例研究〕妄想型統合失調症による行為の評価と医療観察法

の対象行為の判断方法（最高裁平成二十年六月十八日第

三小法廷決定（刑集六十二巻六号一八二二頁）別冊ジュリスト

『医事法判例百選（第三版）』……………（有斐閣）